

令和3年度ノーリフティングケア導入研修会 令和3年5月13日

ノーリフティングケアに取り組んだ 『ねむのき』の変化

～負担の大きかった介護方法の見直し～

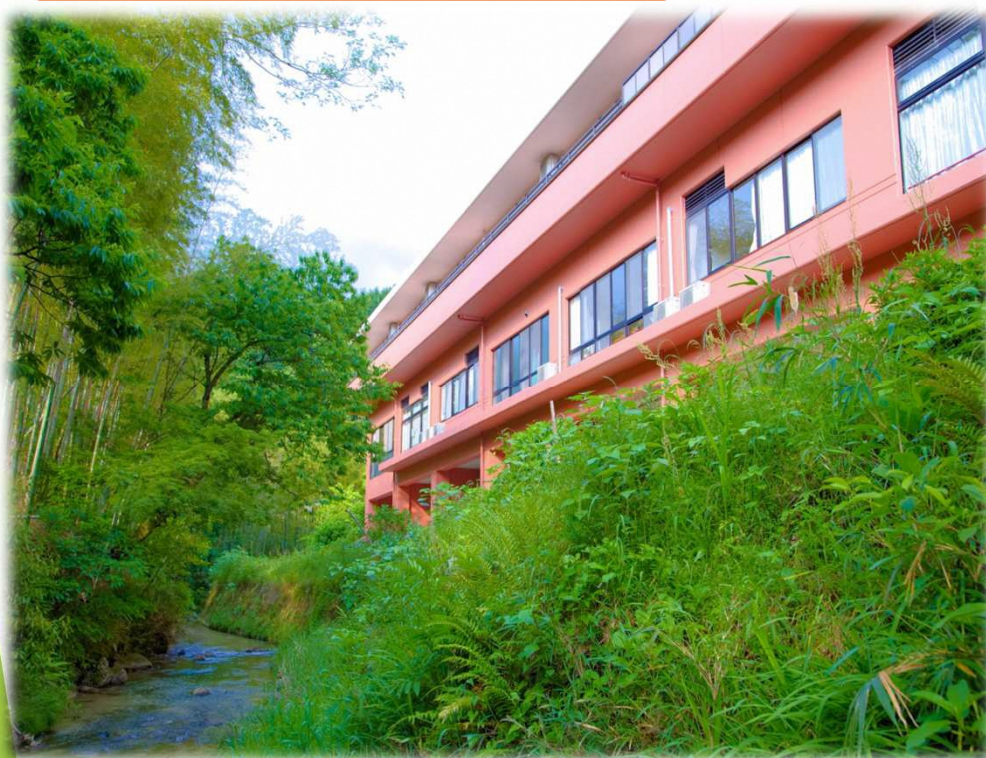
特別養護老人ホーム ねむのき

発表者 國領 航

<施設の概要>

法人内から先行してノーリフティングケアに取り組んだ
⇒ **ねむのき 特別養護老人ホーム 従来型**

これからは、隣接する地域密着型ユニット
や老健“あじさい”への支援を広げます！



<社会福祉法人 那珂川福祉会>

あじさい ⇒ 介護老人保健施設
デイケア

こでまり ⇒ 介護付き有料老人ホーム

ねむのき ⇒ 特別養護老人ホーム

(従来型) 地域密着型ユニット)

デイサービス

認知症対応型デイサービス

居宅介護支援事業所

ホームヘルプサービス

<施設の概要>

従来型入所
地域密着型ユニット

デイサービス

認知症対応型
デイサービス

居宅介護支援
事業所

ホームヘルプ
サービス

<ねむのき ノーリフティングケアの歩み>

H30年11月～ ノーリフティングケアを開始

開始時は、ねむのき全体でノーリフティングケアを進めていく計画を立案。初めに従来型入所がノーリフティングケアを先行して始め、環境を整える。そしてユニット型入所・デイサービスへと伝達予定。

現在は、ユニット型入所が取り組み始め、運営組織の構築に向けてスタート。

<変化した項目>

①腰痛保持者の対策に向けてステップアップ！

②トイレ環境改善に向けて改修計画進行中

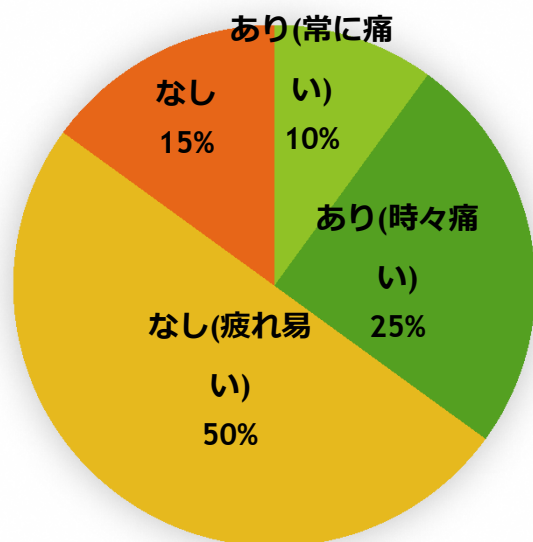
③入浴専用リフト導入で、快適な入浴介助を目指す

④ポジショニングへの意識変化

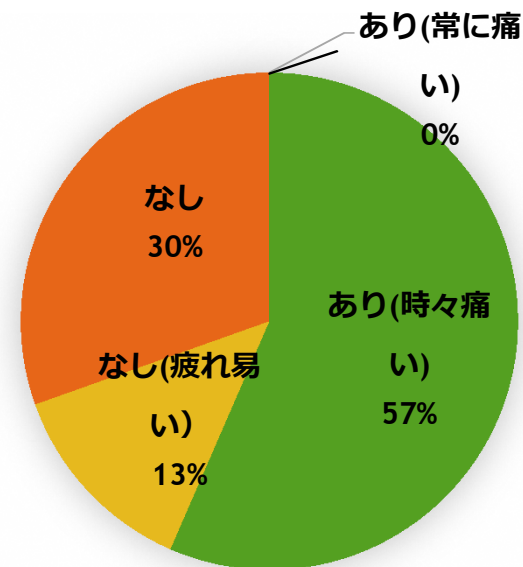
⑤皮膚状態観察の意識変化

①腰痛保持者の経過 (NO.1)

令和2年6月腰痛調査



令和2年12月腰痛調査結果



6月の腰痛調査と12月の腰痛調査を比較した結果、「常に痛い」は減少したが「時々痛い」が25%⇒57%に変化し悪化傾向が見られた。そのため、「時々痛い」と答えた方13名に再調査を実施。

①腰痛保持者の経過 (NO.2)

時々痛みがある13人に追跡調査

| 事例 | 痛みの程度 | 腰痛ありの痛くなった原因 時々痛い時 | 変化 |
|----|---|---|--|
| 1 | 痛みが軽くなった | 半年前と比べて、体調についての自己管理を意識するようになり、痛み方や頻度が少なくなっている。 | → |
| 2 | 以前と変化なし | オムツ交換時に中腰の姿勢が続くと痛くなるが、それ以外は痛みはなくなっている。 | → |
| 3 | | 痛みのレベルは変化なし。長時間の同じ姿勢、Sさんのトイレ介助、入浴時の抱え上げ時に痛い。 | → |
| 4 | | 以前に比べて痛みの頻度は少なくなっている。姿勢の意識を行ったり、無理をしなくていい環境ができてきていると思う。 | → |
| 5 | | オムツ交換時に中腰の姿勢が続くと痛くなる、痛みは以前より減ってきている。 | → |
| 6 | | 部所移動となり聞き取り不可 | × |
| 7 | | 時々痛くない人 | 仕事中に痛みは感じないが、自宅で起き上がり時など痛みを半年前より感じる機会が増えた。予防に仕事中はコルセットをしている。 |
| 8 | 仕事中には痛みはないが、家ででの生活の中で痛みを感じる時がある。 | | → |
| 9 | 自宅で転倒し腰を打った後のアンケートだった為、現在は痛くない | | → |
| 10 | 入浴介助やオムツ交換時に痛みを感じることもあるが、自宅での子供の抱っこでも痛みがある。半年前とは大きく変わっていない。 | | → |
| 11 | 仕事中の痛みではなく、生理痛などが以前より強くなり、腰の重みを感じるようになってきている。 | | → |
| 12 | | Sさんのトイレ介助、現在は痛みはなし | → |
| 13 | 初回 | 特にこれと言っていないが、離床介助など。 | → |

- ・不良姿勢を減らす事などにより軽減 →4名
 - ・トイレ介助や入浴介助での負担がある →3名
 - ・家庭内での負担や持病などにより悪化 →3名
- ※コロナ対策により、業務負担やプライベートでのストレス発散が少なかったことも考えられる。



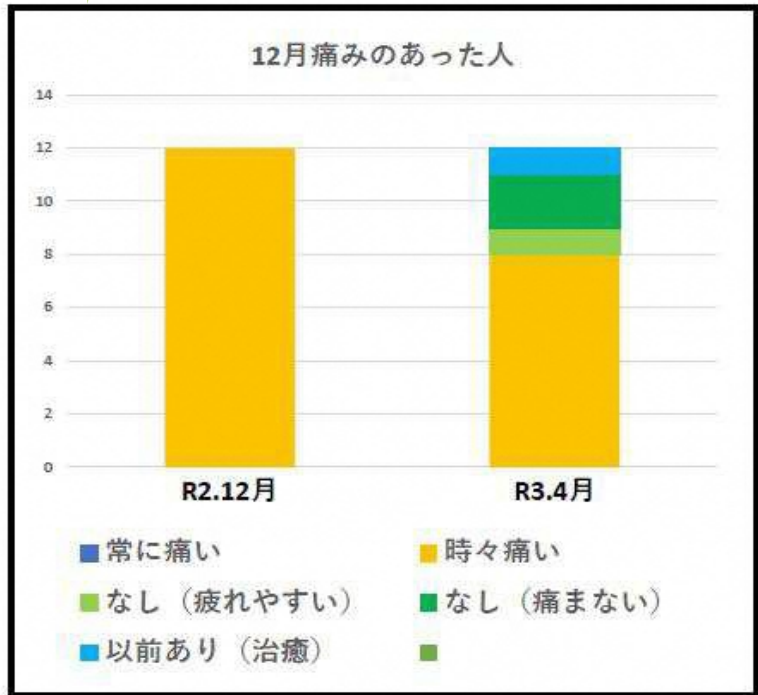
腰痛の原因となったトイレ・浴室環境や困難事例に対するケアにも着目した腰痛対策が必要。

①腰痛保持者の経過 (NO.3) 令和2年12月～令和3年4月

12人 (1名は部署移動の為、除外する)

| | | |
|------------|--------|-------|
| 常に痛い | 0 | 0 |
| 時々痛い | 12 | 8 |
| なし (疲れやすい) | 0 | 1 |
| なし (痛まない) | 0 | 2 |
| 以前あり (治癒) | 0 | 1 |
| | R2.12月 | R3.4月 |

痛みレベル
↑ (大)
(小)



痛みの傾向として・・・

- 痛みの強度は減少している。
- トイレ介助時に抱え上げが必要で痛みの原因となる。
- 以前から痛みはないが疲れやすいと答えた人が腰痛が時々続く傾向にある。
- 腰痛歴の長い人が痛みは継続されている。

＜腰痛保持者以外も予防の実施＞

腰痛予防ストレッチ実施表

| | | 4/1 | 4/2 | 4/3 | 4/4 | 4/5 | 4/6 | 4/7 | 4/8 | |
|---------------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 部長 | A | | | | | | | | | |
| | B | | | | | | | | | |
| | C | | | | | | | | | |
| | 太陽フロア (介護) | D | | | | | | | | |
| | | E | | | | | | | | |
| | | F | | | | | | | | |
| | | G | | | | | | | | |
| | H | | | | | | | | | |
| 青空フロア (介護) | I | | | | | | | | | |
| | J | | | | | | | | | |
| | K | | | | | | | | | |
| | L | | | | | | | | | |
| | M | | | | | | | | | |
| | N | | | | | | | | | |
| | O | | | | | | | | | |
| | P | | | | | | | | | |
| | Q | | | | | | | | | |
| | R | | | | | | | | | |
| | S | | | | | | | | | |
| | T | | | | | | | | | |
| U | | | | | | | | | | |
| V | | | | | | | | | | |
| W | | | | | | | | | | |
| X | | | | | | | | | | |
| Y | | | | | | | | | | |
| パート (介護) | Z | | | | | | | | | |
| | A1 | | | | | | | | | |
| 機能訓練士 | B1 | | | | | | | | | |
| | C1 | | | | | | | | | |
| | D1 | | | | | | | | | |
| 看護師 | E1 | | | | | | | | | |
| | F1 | | | | | | | | | |
| | G1 | | | | | | | | | |
| | H1 | | | | | | | | | |



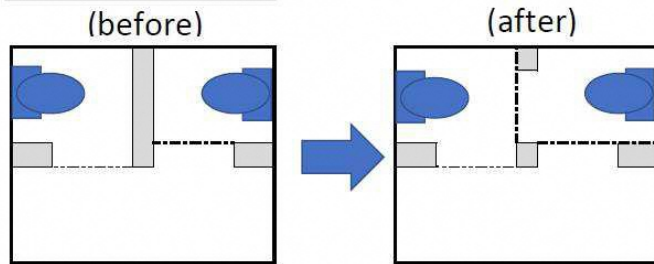
簡易的なチェック表だが
就業前体操、実施率100%！



スタッフから見える位置で体操を実施しチェックリスト
を配置することで意識向上に繋がる。

② トイレ 工事計画 (例 1)

< 1F トイレ >

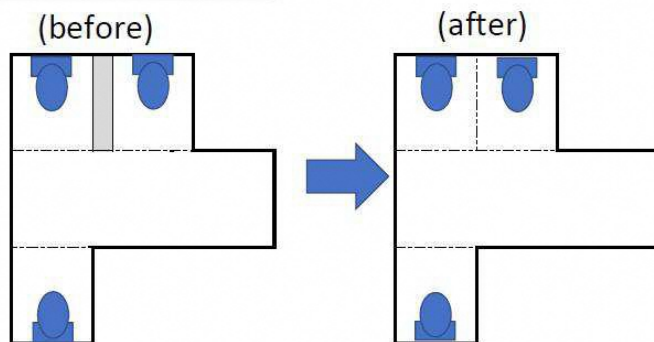


----- 布カーテン

----- アコーディオンカーテン

福祉用具使用の為、間仕切り壁を撤去。SSご利用者の中には他者がトイレを使用中にカーテンを開ける方もいらっしゃるため、簡易的なカーテンではなく鍵付きのアコーディオンカーテンで仕切る。

< 2F トイレ >



間仕切り壁を撤去。間は布カーテンで仕切る。女性用トイレを2か所共に工事を予定。

< 問題点 >

福祉用具を使用する為のスペースが無く、壁があるため思うように使用できない。



< 対策 >

壁を撤去することでスペースの確保。

② トイレ 工事計画 (例 2)



<問題点>

壁とトイレの空間が狭い為、スライディングボード移乗時に作業スペースが確保できず、腰痛予防の動きが出来ない。



<対策>

スライディングボードを使用し介助者スペースを確保して入居者を移乗支援する計画。

② トイレ 工事計画 (例3)



<問題点>

カーテンレールにリフトが接触。
高さが足りず、床に入居者が接触してしまう。
臀部の高さも便座の高さと同じ高さになり
臀部をぶつけてしまう恐れがある。



<対策>

上昇の際にカーテンレールが邪魔で、これ以上
上昇の妨げにならないように20cm程上に
ずらしリフトが当たらないようにする。

③入浴専用 リフト導入



アンケートにより介護負担の大きな課題となっていた入浴介助時の抱え上げ防止の為に、入浴用床走行リフトを導入。

起立が出来る入居者以外の介助で、抱え上げの廃止が実現。スライディングボードも併用して使う事で抱え上げが

入居者50名中抱え上げ者25名



リフト介助になり25名の抱え上げが無くなる。
(※残り25名は起立介助・起立一部介助)

③入浴専用 リフト導入（スリング見直し）



ローバックの排泄用スリング。素材は少し硬めだが、リフト上でズボンの上げ下ろしが容易に可能。



入浴用スリング。灰色の素材は裸体でも痛くない柔らかい物。メッシュ生地で乾きやすい。

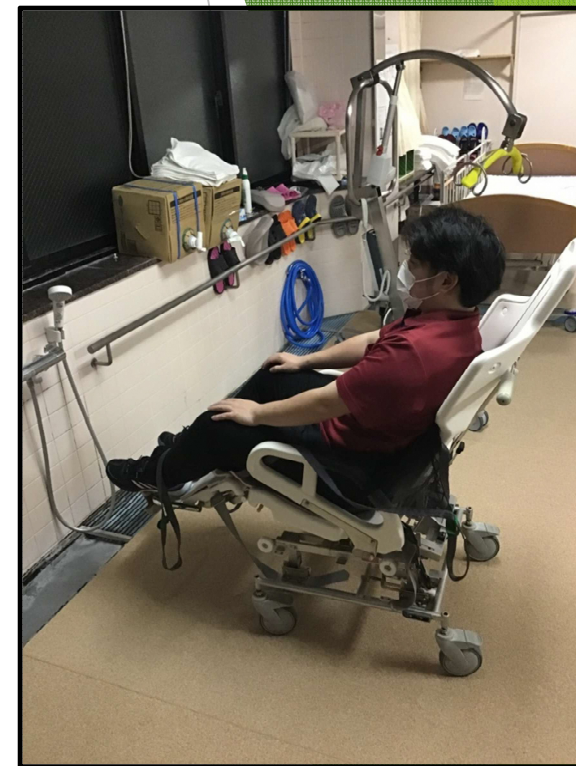
③入浴専用 リフト導入（使用手順）



1. 車いす スリング敷き込み



2. シャワーチェアー 着座



3. シャワー入浴

③入浴専用 リフト導入（使用手順）



4. ベッドに移乗



5. 着衣後、車いすに移乗

④ ポジショニングへの意識変化

| | | | |
|-------------|---|----|------|
| Y | 様 | 担当 | I・K |
| リフト | | S | M |
| ボード | | なし | 立位介助 |
| リクライニング式車椅子 | | | |

・臀部状況考慮し、エアーマット使用。
・金属アレルギーあり。

臀部状況を考慮し、15時パット交換。

ポジショニング

(居室のポジショニングシート)

【ポジショニングのポイント(仰臥位の基本)】

- ① 手足・顔などマットにあずけていない所を見つける (力が入っている所)
- ② 体の近くの部位をクッションで**支える** (すきまを埋めるは×)
- ③ クッションに体を馴染ませる (なつてもらいたい体の方向に)
- ④ 圧抜きを行う
- ⑤ 定時で体位は変える (その際に不安定にさせない)
- ⑥ マットレスもちろん選定が必要
- ⑦ クッションの量は体を支える事が出来ているかどうか重要
- ⑧ 暑さ対策も必要

POINT

(教育ポスター)

ポジショニングが及ぼす二次障害の理解を入所全職員を対象に研修を実施。

- 居室にベッド・車いすでのポジショニング写真を掲示することで統一したポジショニングを実施出来る。
- 教育チームが作成したポスターを目立つ位置に掲示することで自己流になりやすく、技術を振り返ることが出来る。

④ポジショニングへの意識変化



(before)

- 上肢の下にクッションを挟んでいるが円背は改善できず、胸郭が潰れた状態に。

- 大腿部が浮き、座面では重みを受けられず。



(after)

- U字クッションを入れ上肢全体を支えることで胸郭を広げる。

- 大腿部の下にクッションを入れることで大腿部の重みを支えることができる。

- ポジショニングが及ぼす二次障害の理解を入所全職員を対象に研修を実施。

- 機能訓練士と教育チームによるポジショニングの指導を行い、意識向上・理解に努める。

④ ポジショニングへの意識変化（職員の声）

教えてもらった形にポジショニングをするだけだと忘れてしまうけど、座位の基本など基礎をしっかり理解することで様々な状態の入居者への応用が効く。



きちんとポジショニングをすると首の可動域が狭かった方も可動域が広く動く様になった。

他の方もきちんとポジショニング出来れば、どんな変化が見れるだろう。

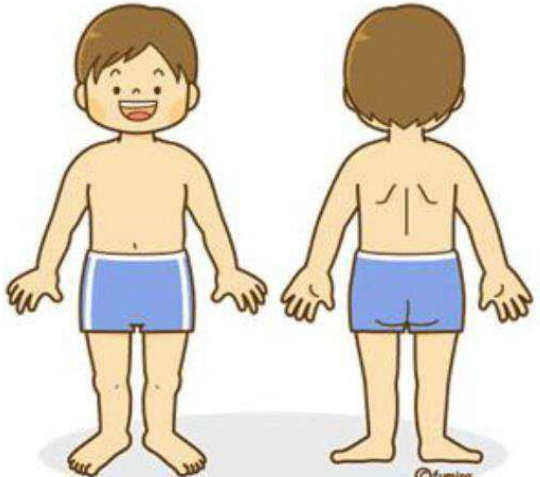


⑤ 皮膚状態観察の意識変化

【皮膚トラブルチェックシート】 事故・ヒヤリ 写真：有・無

利用者名： _____ 様 発見者： _____

発見日： 月 日
処置開始日： 月 日
処置完了日： 月 日



介助方法

| |
|-----|
| リフト |
| ボード |
| 抱え |

〈処置内容…〉 _____

| 月 | 日 | 利用者名 | 内容 | 部位 | 処置 | 事故 | ヒヤリ | 発見者 |
|-----|----|------|------|---------|----|----|-----|-----|
| 10月 | 15 | K氏 | 皮下出血 | 左上肢 | | | | 介護 |
| | 23 | K氏 | 皮下出血 | 右下腿 | | | | 看護 |
| | 30 | M氏 | 皮下出血 | 右上肢 | | | | 介護 |
| 11月 | 6 | K氏 | 皮下出血 | 右腋窩 | | | | 介護 |
| | 6 | Y氏 | 皮下出血 | 両下肢 | | | | 介護 |
| | 6 | K氏 | 皮下出血 | 左手背 | | | ○ | 介護 |
| | 7 | N氏 | 皮下出血 | 右前腕 | | | ○ | 介護 |
| | 11 | A氏 | 皮下出血 | 左前腕 | | | | 介護 |
| | 17 | Y氏 | 皮下出血 | 両下肢 | | | | 看護 |
| 12月 | 11 | U氏 | 皮下出血 | 左臀部 | | | | 看護 |
| 1月 | 16 | Y氏 | 皮下出血 | 左第3趾 | | | | 介護 |
| | 30 | Y氏 | 打撲痕 | 右下肢 | | | | 介護 |
| 2月 | 4 | Y氏 | 皮下出血 | 右前腕 | ○ | | | 介護 |
| | 27 | K氏 | 皮下出血 | 左上腕・左下肢 | ○ | | | 介護 |
| 3月 | 2 | Y氏 | 皮下出血 | 右内踝 | | | | 介護 |
| | 3 | T氏 | 皮下出血 | 右下肢 | | | | 介護 |
| | 15 | K氏 | 皮下出血 | 右上腕 | | | | 介護 |
| | 15 | H氏 | 皮下出血 | 眉間 | | | | 介護 |
| 4月 | 9 | K氏 | 皮下出血 | 左手背 | | | | 介護 |
| | 13 | G氏 | 皮下出血 | 左第3指 | | | | 介護 |
| | 21 | T氏 | 皮下出血 | 左下肢 | ○ | | | 介護 |
| | 24 | M氏 | 皮膚剥離 | 左下肢 | ○ | | | 介護 |
| | 28 | S氏 | | 左手背 | ○ | | ○ | 介護 |
| | 29 | U氏 | 皮下出血 | 右下肢 | | | | 介護 |
| | 29 | K氏 | 皮下出血 | 左手背 | | | | 介護 |

| 月 | 件数 | 発見者 | | | |
|-----|----|-----|----|--|----|
| | | 介護 | 看護 | | |
| 10月 | 3 | 2 | 1 | | 看護 |
| 11月 | 6 | 5 | 1 | | |
| 12月 | 1 | | 1 | | 介護 |
| 1月 | 2 | 2 | | | |
| 2月 | 2 | 2 | | | |
| 3月 | 4 | 4 | | | |
| 4月 | 7 | 7 | | | |
| 合計 | 25 | 22 | 3 | | |

●皮下出血や、皮膚状態の観察への意識。
⇒ポジショニングへの意識が変化することで褥瘡形成、皮下出血など皮膚を観察することへの意識が高まった。



10月～12月は**介護7件、看護3件**の皮膚トラブルの発見が、1月～4月は**介護15件、看護0件**と、介護の皮膚観察への意識向上が分かる。

計画通りに進まないことも・・・



<コロナ流行による対策>

- 委員会の制限・参加人数の制限
- 体調不良による欠勤者の休暇の延長
(スタッフ家族の体調不良も含む)
- 欠勤者の業務フォロー
- ユニットの往来の禁止
⇒他ユニットへのヘルプが出来ず
- 入浴介助スタッフの減少
4人⇒3人に減少により介護の負担増加。

＜残っている課題＞

- 技術教育の未実施(自分流を防ぐ、技術を忘れている、技術の上達など)。
- 介護負担の大きいトイレ介助のノーリフティング化。壁の撤去計画進行中。
- 入浴介助にかかる時間の短縮。(業務改善⇒勤務時間の変更や入浴入居者の選定)
- 新人職員へのノーリフティングケアの伝達方法。マニュアル化未実施。
- 同施設内、同法人内へのノーリフティングケアの伝達・アドバイス未実施。

＜今後の目標＞

従来型入所のノーリフティングケアの環境整備。及び同施設内、同法人内へのノーリフティングケアの伝達の実行と地域への発信。そして福岡地域の先行モデル施設としての意識を高め、福岡地域へのノーリフティングケアの伝達を目指す。